

2 - 1 - 5 国際的な機関・イニシアティブとの連携

1) 国連人道問題調整事務所 (OCHA)

1999年2月に国連人道問題調整事務所とアジア防災センターの共同プロジェクトとして、OCHA アジアユニット(2001年よりOCHA 神戸)がアジア防災センターに開設されて以来、OCHA 神戸とアジア防災センターとは種々の情報交換を行うとともに、本年度は、カトマンズでの国際会議および神戸における災害NGOワークショップを共同で開催した。(後述)

2) ReliefWeb(OCHA)

国連人道問題調整事務所(OCHA)のRelief Webでは、災害時の人道的援助活動支援のため、自然災害に関する情報及び災害対策等に関する信頼できる情報をインターネットを通じて提供している。アジア防災センターは開設当初から、Relief Webにリンクを張り、国連の情報をADRCのウェブを通じて効率的に閲覧可能なシステムを構築してきた。また、Relief Webにおいても、ADRCの各国情報の充実に伴い、Relief Webの各国防災情報の情報源として、ADRCのウェブにリンクが張られるなど、相互で情報を共有し、それぞれのユーザーに効率的な情報提供が行われている。

また、Relief Webでは、従来ニューヨークとジュネーブにおいて情報の収集提供を行ってきたが、時差の関係で24時間のうち8時間がカバーできなかったことから、2001年8月にアジア防災センター内に神戸オフィスを設置し、従来にも増して防災情報の共有に関して協力していくこととなった。

3) ルーベンカトリック大学災害疫学研究所(CRED)

アジア防災センターは、今世紀に発生したアジア地域の災害情報を総合的に把握し、次世紀におけるアジア各国の防災力強化への資産となる「20世紀アジア災害総覧」構築のため、全世界で唯一、総括的に自然災害データベースを保有するルーベンカトリック大学災害疫学研究所(CRED:ベルギー)と、1999年11月5日に「防災情報収集協力についての覚書」を締結し、相互にデータを補完・共有しながら、情報発信していくこととなった。

また、アジア防災センターがGDINにおいて提唱したUnique IDプロジェクトをRelief Webとともに共同で推進していくことが、2001年3月のGDIN会合で確認され、2002年1月よりRelief Webとともに運用を開始した。

4) GDIN(Global Disaster Information Network)

GDIN (Global Disaster Information Network=国際災害情報専門家会合)は、アメリカ国務省 (Department of State) が提唱して始められたプロジェクトで、その目標は、災害情報共有のため、国際的協調を組織的に行うための枠組みを構築し、それにより、既存の情報へのアクセスを改善し、それらの有効活用を図り、「正確かつ信頼できる情報を、迅速に、必要とする人々へ、的確な様式で提供」することである。

特に、災害の初期における状況をいかに迅速に把握するかということを中心に大きな課題としており、衛星情報やGISの有効活用ということを視野においている。

従って、このイニシアティブは、既存の情報機関と張り合うことなく、協調しながら、それらの資産を有効に活用することを念頭においており、アジア防災センターの設立趣旨とも極めて共通する部分がある。

これまでに、

第1回：1998年7月16-17日 at ワシントン DC

第2回：1999年5月11-14日 at メキシコシティ

第3回：2000年4月26-29日 at アンカラ

第4回：2001年4月20-23日 at キャンベラ

アジア防災センターは、第3回のアンカラ会合から参画しており、この世界的な防災情報共有のイニシアティブに積極的に参画している。

5) ADPC (Asian Disaster Preparedness Center)

ADPCは、タイのバンコクに1986年に創設された民間の国際防災センターであるが、活動分野も教育訓練にとどまらず、各国・地域の要請に応じたコンサルティングや種々の情報サービス、地域防災力向上のためのプログラムなど多岐にわたっている。

アジア防災センターは、アジア地域での災害の軽減という共通の目的のため、2001年6月にADPCとの間で覚書(MOU)を交わし、

- ・ 国際防災戦略活動 (ISDR) などの国際的な防災活動
- ・ 災害管理情報システムや技術開発
- ・ 防災トレーニングに係る技術
- ・ 共同プロジェクトの実施

などに協力していくこととした。